

アクティブ・ラーニング型授業による 藤沢清流高校での組織的な授業改善

小島昭彦

神奈川県立藤沢清流高等学校総括教諭

皆様、こんにちは。

神奈川県立藤沢清流高校の小島昭彦と申します。本校は、今年開校6年目を迎える全日制普通科の単位制公立高校で、神奈川県から「確かな学力向上推進・研究推進校」に指定されています。

2000年度に過去最多の166校だった神奈川県立高校は、その後再編・統合を繰り返し、現在では計142校になっています。本校は2010年4月、2つの高校が1つに再編・統合されて誕生しました。

本日は、本校が行っているアクティブ・ラーニング型授業について、大きく三つのことをお話したいと思います。一つ目は、本校におけるアクティブ・ラーニング型授業が組織的な取り組みに至るまでの経緯。二つ目は、「確かな学力向上推進・研究推進校」として、アクティブ・ラーニングにどのように取り組んでいるか。三つ目は、見えてきた成果と新たな課題です。

本校でアクティブ・ラーニング型授業を始めようと声を挙げたのは、実はこの私です。私は、今から9年ほど前、教職歴が20年目に差しかかった頃から、自分の授業がマンネリ化して行き詰まりを感じるようになりました。それを打開しようといくつもの研究会に出席する中で出会ったのが、アクティブ・ラーニング型授業でした。

本校では90分授業を行っていますが、集中力を保てない生徒が少なくないことに、私は以前から課題を感じていました。その改善策としてアクティブ・ラーニング型授業がきっと役立つだろうと、早速自分で実践してみました。取り組み始めた当初は、グループ学習をしさえすればアクティブ・ラーニングになると思っていたのですが、「グループ学習をただ行うだけではダメである」ということが次第に分かってきましたから、試行錯誤を重ねて自分なりの形を作っていたのです。その過程で、同僚と一緒に組織的に取り組み、学校全体の力が高まるのではないかと思い至りました。そこで、会議に諮って神奈川県に計画の申請書を提出したところ、2013年度にアクティブ・ラーニングについての「確かな学力向上推進・研究推進校」に指定されたのです。

本校が研究指定を受けた当初は「アクティブ・ラーニング型授業って何？」と言う教師教員が県内にも大勢いましたが、現在では教員の関心が高まり、アクティブ・ラーニング型授業をテーマに研究会を行うと瞬く間に参加希望者が集まるようになってきています。アクティブ・ラーニング型授業が広く浸透しつつあると感じます。

本校では、アクティブ・ラーニング型授業の仕方を統一せず、教員の自由にしています。

これが、組織的な取り組みに成長した要因の1つだと考えます。教員1人ひとりが自分の持ち味を発揮し、工夫を凝らしながら実践していけるからです。互いの実践を見学したり意見を交換したりすることから新たな気づきが生まれ、自らの実践を改善するという良いサイクルが校内ででき上がりつつあります。

では教員個人としては、どのようにアクティブ・ラーニング型授業を行っていけばよいでしょうか。ポイントを四つ挙げてみましょう。1つ目は、アクティブ・ラーニング型授業をなぜ行うのか、生徒にきちんと理解させることです。私はこれを非常に大切なことだと思っていますから、アクティブ・ラーニング型授業の意義を毎回の授業で繰り返し伝えています。間違っても構わないということは、特に重点を置いて説明しています。この授業はどういう場かといえば、「安全・安心の場」だよと。何度もそう呼び掛けることで、「間違えることは恥ずかしいことだ」という生徒の意識が変わっていき、「間違えることが授業に貢献していることになるんだ」「グループの学びを深めることに繋がるんだ」という気持ちが教室に浸透していきます。そうした状態になってはじめて、グループでの学習が深まるようになると、私は考えています。また、ペア・グループ学習の目標、そのための留意点、そしてクラス全体が一つのチームだということをどの生徒にも伝えたく、ご覧いただいているスライドに示しているように教室の黒板に掲示しています。

教員個人がアクティブ・ラーニング型授業を行う上でのポイントの2つ目は、授業のデザインです。例えば、協同学習を行うにあたり、各グループに課題を配りますが、その課題をどの程度のレベルに設定するかは教員によって異なるでしょう。課題の効果が上がるようレベルを設定するのは簡単ではありませんが、じっくり腰を据えて取り組むと、いいアクティブ・ラーニング型授業ができることを、最近実感できるようになりました。

ポイントの3つ目は、グループ分けです。本日の講演でも何度か言及されていますが、仲良しグループをつくらせるのではなく、将来社会へ出たときのことを考え、あまり親しくない友だちとも協働して学習活動に取り組めるよう、くじ引きによるグループ分けを行っています。さらに、私は自分の担当教科である英語の授業で、生徒を4人のグループに分けています。グループ内の特定の生徒に作業の負担が集中しないよう、たとえば「1番」の生徒はリーダー、「2番」の生徒は記録係、「3番」の生徒はタイムキーパー、「4番」の生徒は偵察係というように、4人に1人ずつ毎回異なる係を分担させています。

教員が教え過ぎないことが大切であると、先ほど安西先生が基調講演でおっしゃっていました。私も、グループワークの最中は生徒からの質問にはほとんど答えず、生徒同士で教え合い、学び合う関係をつくらせています。ただ、もちろん、質問した生徒を無視するわけではありません。「それはどうしたら分かりますか?」「どこを調べれば載っていますか?」と、質問に対して質問で返すようにしています。

ポイントの4つ目は、振り返りです。グループで互いに協力できたか、次の時間どんな活動を心がけたいかななどをグループ内で毎回振り返り、その内容をシートに書きます。シートは私が回収し、チェックしてから、生徒に返却します。

研究成果の検証法についてもお話ししましょう。本校では研究指定を受けてから現在までの3年間、アクティブ・ラーニング型授業による生徒と教員両方への影響を見取っています。

大学の先生方はお聞きになったことがあると思いますが、社会で求められる汎用的な能

力、ジェネリックスキルを測る「PROG テスト」という大学生向けのテストがあります。最近では、「PROG テスト」を高校生向けにつくり直したテストが開発され、本校でもその導入を考えています。

生徒には、日頃の授業に対する評価を年2回、各科目で自由に書かせています。アクティブ・ラーニング型授業の取り組みの当初は、「楽しい」「アクティブ・ラーニング型授業になって、あっという間に授業が終わる」「集中力がついた」といった意見が多かったのですが、次第に「チームで協力することが面白くなった」「責任というものを感じるようになって、みんなで協力しあって新しいものを作る喜びが出てきた」という意見が増えてきました。生徒の意見が変わっていくのを見て、私は「学びへの意欲が高まってきているのかな」と思いました。実際、生徒が授業中に「ああ、そういうことか!」と口に出すこともあります。私はそれを聞くと、大きな喜びを感じます。一方、アクティブ・ラーニング型授業における問題点を指摘されることもあります。

教員に対するアンケート調査でも、「授業が活性化するようになった」といった肯定的な意見が多くある一方で、「授業が進まない」「授業進行の妨げになる」という声があることも事実です。指摘された点については、教員の校内研修等で論議し、解決を図るようにしています。

以上、本校での実践をお話ししました。ご清聴ありがとうございました。

【資料①（小島）】

初年次教育学会第8回大会（於 明星大学）
公開シンポジウム
「変わる初等中等教育の学びと大学初年次教育」

アクティブラーニング型授業による 藤沢清流高校での組織的な授業改善

2015年9月3日 神奈川県立藤沢清流高等学校
総括教諭 小島 昭彦

1



自己紹介（小島昭彦について）

神奈川県立藤沢清流高等学校の総括教諭。キャリア支援グループのグループリーダー。教科は外国語(英語)。

1963年1月、神奈川県藤沢市生まれ。1987年3月、中央大学文学部文学科英米文学専攻を卒業。同年4月より神奈川県立高等学校の教壇に立つ。これまで、厚木西高等学校(1987年-1996年)、磯子高等学校(1996年-2001年)、藤沢西高等学校(2001年-2011年)、藤沢清流高等学校(2011年-)に勤務。

現在は、校内でのキャリア支援体制の充実、アクティブラーニング型授業推進、関係機関・専門家との連携により「組織的な授業改善」を推進。これまでに、湘北短期大学、文教大学等の研修会において、アクティブラーニング型授業の実践、校内での組織的な授業改善について講演。

趣味はクラシック音楽鑑賞。

【連絡先】 251-0002 神奈川県藤沢市大鋸1450番地 神奈川県立藤沢清流高等学校(0466-82-8112)
小島 昭彦 akishiko-kojima@pen-kanagawa.ed.jp

2



藤沢清流高校について

<http://www.fujisawaseiryu-h.pen-kanagawa.ed.jp/>

○神奈川県の高等学校 現在235校(内訳:県立142校、市立15校、私立78校)。
※中等教育学校は5校(内訳:県立2校、私立3校)。特別支援学校は50校(内訳:国立2校、県立27校、市立19校、私立2校)。

○藤沢清流高等学校 全日制普通科(単位制)
・平成22(2010)年4月 大清水高校と藤沢高校が再編統合し、全日制普通科の単位制高等学校として、大清水高校敷地に開校(県立の全日制普通科の単位制高等学校は8校)。本年3月に5期生が卒業。
・開校以来、90分授業を実施。「まじめがかっこいい」→生徒の成長＝学校の力。
・1クラス30名。生徒数は約720名。1・2年次の英・数で習熟度別小集団授業を展開。

251-0002 神奈川県藤沢市大鋸1450番地 (電話:0466-82-8112)

3



お伝えしたいこと

アクティブラーニング(AL)型授業による 藤沢清流高校での組織的な授業改善

- 0 (確認)アクティブラーニングとは
- 1 組織的な取組に至るまで
- 2 確かな学力向上推進 研究推進校として
- 3 見えてきた成果・新たな課題
- 4 最後に(まとめ、その他)

4



0. アクティブラーニングとは

「一方向的な知識伝達型講義を聴くという(受動的)学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化(※)を伴う。」(『アクティブラーニングと教授学習法パラダイムの転換』 京都大学 高等教育研究開発推進センター教授 溝上 慎一 著)

※外化: 文章や会話、発表などを通じて、自分の頭の中にある思考を外に出すこと。(溝上 氏)

5



1. 組織的な取組に至るまで

(1)外国語(英語)担当教員、小島の体験から

○授業のマンネリ化、行き詰まり
→当時の校長に相談「変えるなら、一部ではなく全面的に」

○セミナー、研究会などへ参加
・産業能率大学「授業力向上セミナー」(現 産業能率大学教授 小林 昭文 氏)
・同「キャリア教育推進フォーラム」
・河合塾に問い合わせ
→『「深い学び」につながるアクティブラーニング—全国大学の学科調査報告とカリキュラム設計の課題」(河合塾)を教えていただく

・有志の研究会 AL型授業を(生徒役で)体験(東京都立高等学校教諭による国語授業)

○90分授業の中で、創意工夫の必要性一試行錯誤、悪戦苦闘の日々。それでもAL型授業を続ける。
→授業改善は個人ではなく、組織的に。
→ならば、組織的に取り組むことで生徒全体の学力が向上し、学校力も高めることができるはず!

6

1. 組織的な取組に至るまで

(2) 企画会議→県へ計画申請 (2013年2月)

次年度からの「県立高校教育力向上推進事業ver.Ⅱ」に、「確かな学力向上推進」(アクティブラーニングに基づく)の3年間の計画申請を行うことを提案、決定。
 ※企画会議: 校長が主宰。校長がつかさどる校務を補助するため、学校運営上の重要事項に関する企画立案等を行う。

(3) 県より研究推進校に指定される (2013年3月22日) (2013年4月23日付記者発表資料…別途配付)

※研究推進校: 高校教育の基盤の質的な保証を図るため、すべての高校に共通に求められるテーマの先進的な役割を果たす学校として、8つのテーマに対し70校を指定。テーマは、「確かな学力向上推進」、「ICT活用教育」、「いのちの尊重に関する教育」、「防災教育」の4つ。

※教育実践校: 生徒一人ひとりの個性を生かす教育の充実に資するため、特色あるテーマの教育を深化させ、自校の魅力ある教育の実践・発信を積極的に行う学校として、7つのテーマに対し54校を指定。教育実践校のうち、「学力向上進学重点」をテーマとする学校は継続指定の18校とし、牽引役として横浜翠嵐高校と湘南高校の2校を「アドバンス校」に指定。

©2015 Aihiko KOUJIMA 監製新転載・複製

7

2. 確かな学力向上推進 研究推進校として

3年間の計画 【資料③を参照】

1年目 (2013年度)

- ・アクティブラーニングについての調査・研究
- ・全職員に対する研修 → 考え方や実践に対する理解と取組の浸透

2年目 (2014年度)

- ・前年度の成果を活かした授業実践
- ・実践事例(ノウハウ)の共有と整理

3年目 (2015年度)

- ・AL型授業実践の振り返り
- ・これまでの研究成果の検証、研究のまとめ (とはいえ、まだまだ続く…はず)

各年度

- ・高大連携を積極的に活用し、大学でのアクティブラーニング関連フォーラム、セミナー等に積極的に参加

©2015 Aihiko KOUJIMA 監製新転載・複製

8

2. 確かな学力向上推進 研究推進校として

期待される成果とその検証方法について

- 様々なアクティブラーニング型授業の実践を教員間で共有することにより、教員の授業改善に対する意識、授業実践力の向上が期待できる。
- 全教員がアクティブラーニング型授業を実践することにより、これまで以上に、生徒の能動的な学び、確かな学力の定着、汎用的技能の育成が期待できる。
- 研究成果の検証方法等に関しては、大学はじめ関係機関等の協力を仰ぎながら、各年度における授業実践、生徒による授業評価、学習成果発表会等を利用して行う。

©2015 Aihiko KOUJIMA 監製新転載・複製

9

2. 確かな学力向上推進 研究推進校として

AL型授業の方法は統一しない

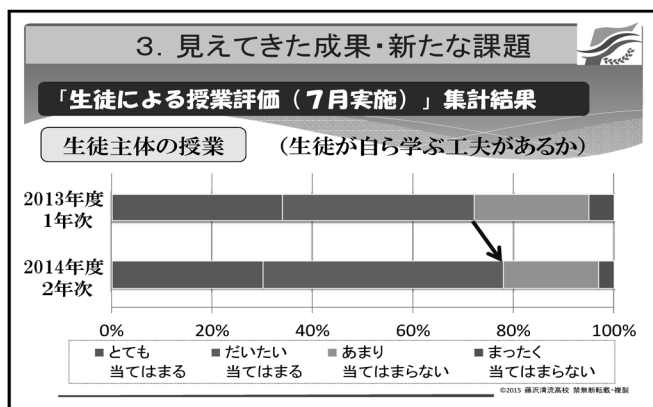
2014年秋 AL型授業の実践について、単元の指導計画・授業の進め方についての検討を、教科ごとに実施

- ・教科会の前に全員が資料を作成し、教科会で集約・共有・討議
- ・AL型授業の方法は統一せず、各教員が持ち味を活かして様々な工夫を凝らし実践

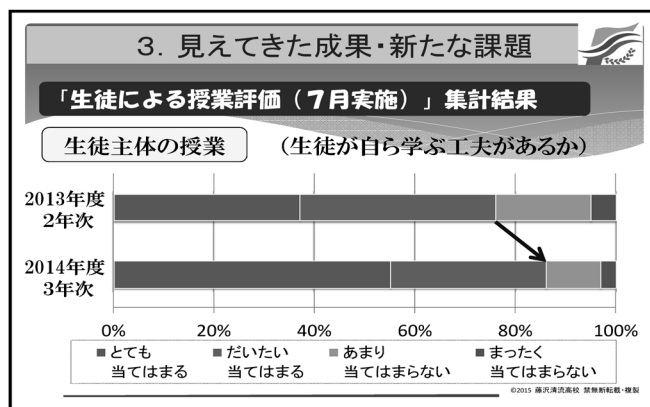
→ アイディアを共有、新たな気付き、さらに新たな方法により改善を試みる、というサイクルが構築されている

©2015 Aihiko KOUJIMA 監製新転載・複製

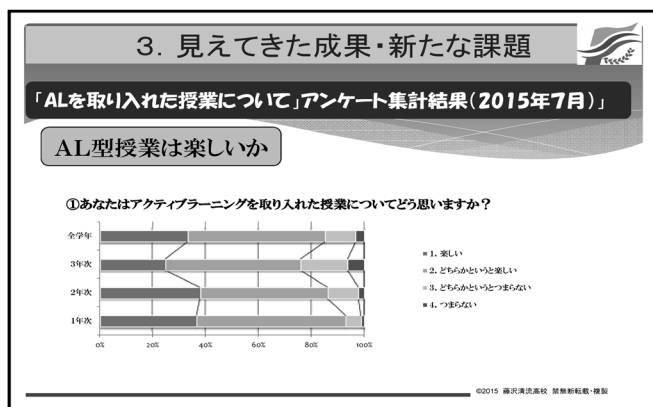
10



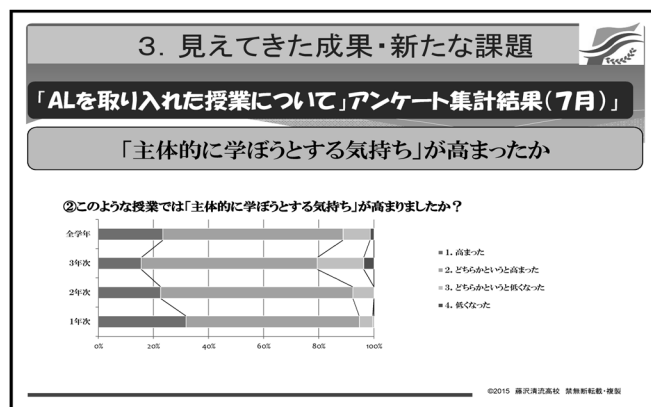
11



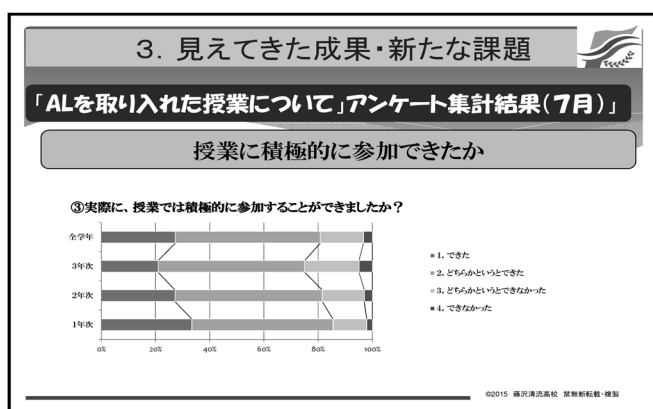
12



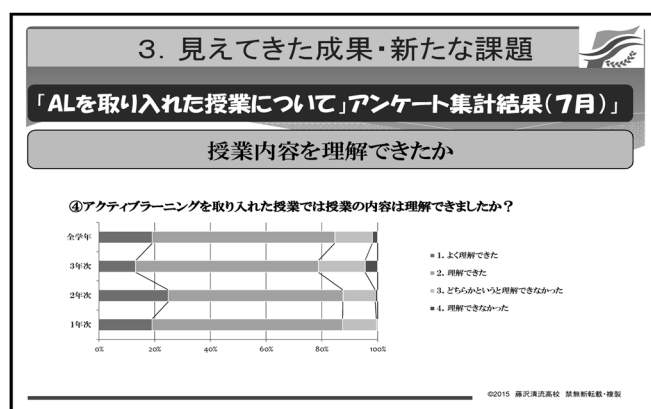
13



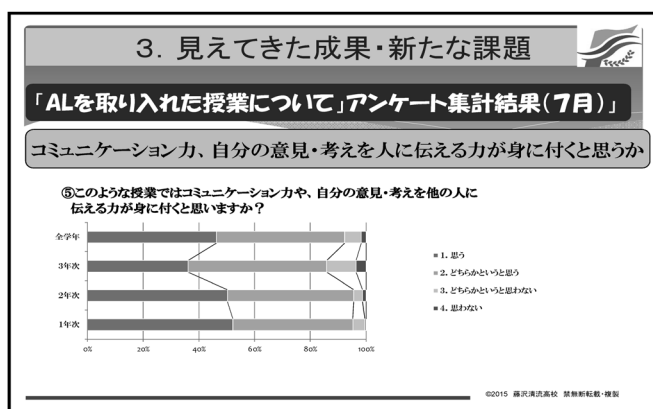
14



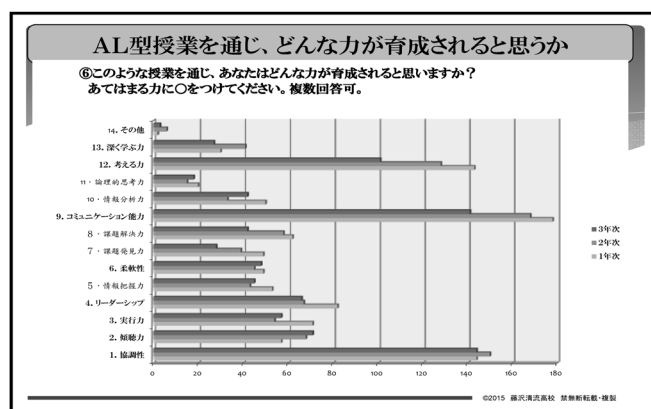
15



16



17



18

3. 見えてきた成果・新たな課題

「生徒による授業評価」(年2回実施)、
「ALを取り入れた授業について」 アンケート集計から

自由記述 (アクティブラーニング型授業に関する記述)

- ・グループを作って話し合ったり発表したりして、**とても楽しい授業** だと思う。
- ・グループワークもたくさんあり90分間集中して勉強ができる。
- ・授業が楽しいので毎週楽しみにしています。グループワークが多いのもやる気が出る。
- ・グループワークが多いので、授業に積極的に参加できる。
- ・ペアワーク、グループワーク、フラッシュカードで**責任感のようなもの**が出て、身に付く。
- ・グループワークをするので内容が**しっかり理解**できる。
- ・人に物事を説明したり、伝えたりするのが**難しい**と思った。

©2015 藤沢市立高校 禁無断転載・複製

19

「生徒による授業評価」(年2回実施)、
「ALを取り入れた授業について」 アンケート集計から

- ・グループで問題を解き教えあうようにするなど、**自ら学ぶ充実感があ**って良い。
- ・グループで話しをするのが**いろいろな意見を聞けて楽しい**し理解しやすい。
- ・グループで考えたり、話し合ったりする授業の仕方が私は好きです。**内容が頭に入りやすい**し皆の考えがわかるので、内容を**とても考える機会**になっていい。
- ・グループワークで班で話し合うことで**分からない所が分かる**ようになったりする。
- ・前後や左右の人と授業の内容を話すことで、**授業の内容をまとめ**ることができるので、**分かりやすい**。
- ・はなしあうことが多くてだれかといっしょにやったり、**確認**ができるのがよかった。

©2015 藤沢市立高校 禁無断転載・複製

20

「生徒による授業評価」(年2回実施)、
「ALを取り入れた授業について」 アンケート集計から

- ・むずかしいもんだいをグループでやるのは、**はなしあいの力もつく**し、自分がおもいつかない考え方がでてきて、**とてもいいとおも**う。
- ・グループで考える時間が与えられているので問題に**しっかり**取り組み、グループ内でも**新しい発見**があって楽しい。
- ・グループワークでお互いのわからないところを**教え合ったり**するので自分にも**相手にもプラス**になっている。
- ・(AL型授業により)グループワークが**とても増え、自分の意見を発信する力がついた**と思う。今後もグループワークを続けて欲しい。
- ・グループワークの取り組みは**目が覚める**ので好き。
- ・グループでやった方が**理解度が高い**と思う。
- ・グループ学習が多くて、人見知りの私は大変だけど、**わからなくても**班の人に教えてもらえることができていいと思う。

©2015 藤沢市立高校 禁無断転載・複製

21

「生徒による授業評価」(年2回実施)、
「ALを取り入れた授業について」 アンケート集計から

- ・90分が**とてもはやく**感じる。
- ・アクティブラーニング型授業は、会話ができたり、協力し合いながら取り組んだりできるので、**全然眠くならず**に楽しめる。
- ・学力とともに、**協調性も伸ばせる**と思う。
- ・すごく集中できて、自分で考えて発言するので、**とても身になって**楽しかった。
- ・今までは間違えてはいけないと思っていたが、アクティブラーニング型授業を受け、**わからなかったり、間違えたりしても平気なんだと思**え、それが**大切なことだと思**えるようになった。
- ・グループで授業に参加することで、まわりの人の答えや考えを聞けるのでよかった。
- ・グループで教え合うことで、少し不安な答えでも周りと同じだと自信が**つくし、教え合っている中で間違いに気づくこともできる**からよかった。

©2015 藤沢市立高校 禁無断転載・複製

22

「生徒による授業評価」(年2回実施)、
「ALを取り入れた授業について」 アンケート集計から

- ・自分のもっていない知識を友達から教わることもできるし、自分が教えることによって覚えることもできるので、**とてもよい**。
- ・アクティブラーニングで、**自分の間違いに気付く**ことができたり、**みんなが発見したことをまとめたら正解に近づく**ことができた。授業が眠くならなくてよい。
- ・わからないところをみんなで話し合いながら**答えを出せて、理解も深まり、とてもいい**と思う。
- ・なかなか自分からグループに質問を切り出せないことも多い私だが、周りに誰かがいるのは、いざというときに安心。**プリントを渡すときに「ありがと」って**言えるのはとても嬉しい。
- ・どうしたら会話を円滑に進められるか考えるようになった。

©2015 藤沢市立高校 禁無断転載・複製

23

3. 見えてきた成果・新たな課題

「生徒による授業評価」(年2回実施)、
「ALを取り入れた授業について」 アンケート集計から

自由記述 (アクティブラーニング型授業に関する記述)

- ▲グループワークはいいけれど、班によるかも・・・。
- ▲あまり話さない人とグループになると、質問しづらいと思った。本当はそれで話すべきなんだろうが・・・。
- ▲【英語】教科書の本文については、もう少し先生の解説があった方がよい。理解したつもりでもできていないところがあるから。
- ▲みんな同じ意見だと進まない。
- ▲話し合いに参加しない人がいる。
- ▲あまり話さない人だと気まずい。
- ▲自分の考えを表現することが難しかった。

©2015 藤沢市立高校 禁無断転載・複製

24

「生徒による授業評価」(年2回実施)、
「ALを取り入れた授業について」 アンケート集計から

- ▲人前で話すことに緊張してしまう。
- ▲雑談でうるさいと感ずることがある。
- ▲意見がまとまらないことがある。
- ▲義務的な会話になる。
- ▲ひとりの方が理解できる。
- ▲先生によってアクティブラーニング(型授業)にズレがある。

©2015 藤沢清流高校 禁無断転載・複製

25

3. 見えてきた成果・新たな課題

AL型授業に対する教員アンケート(2014年7月)

実施日	2014年7月
対 象	藤沢清流高校職員
内 容	アクティブラーニングに基づく学力向上推進 の取組に関する調査
質問数	16問(選択式14問・自由記述式2問)
回答数	45名(無記名)

©2015 藤沢清流高校 禁無断転載・複製

26

3. 見えてきた成果・新たな課題

AL型授業に対する教員アンケート(2014年7月)集計結果

(5) 自身の授業において、アクティブラーニングを取り入れるメリットは何だと思われますか。(複数回答)

授業の活性化	26 %
コミュニケーション能力の向上	22 %
言語活動の充実	13 %
課題解決力の向上	12 %
課題発見力の向上	8 %
社会性の醸成	8 %
目に見える学力の向上	4 %
その他	6 %

©2015 藤沢清流高校 禁無断転載・複製

27

3. 見えてきた成果・新たな課題

AL型授業に対する教員アンケート(2014年7月)集計結果

(6) 自身の授業において、アクティブラーニングを取り入れるデメリットは何だと思われますか。(複数回答)

授業(教科書)進行の妨げになる	28 %
教材・教具の不足、準備時間の不足等	23 %
コミュニケーションを望まない生徒の扱いに困る	16 %
講義形式を望む生徒もいる(受験優先)	13 %
グループ分けの際に均等に配置ができない	12 %
その他	9 %

©2015 藤沢清流高校 禁無断転載・複製

28

3. 見えてきた成果・新たな課題

確かな学力向上推進アンケート(教員対象 2015年3月)

実施日	2015年3月
対 象	県の研究推進校11校の教職員
内 容	校内授業研究の取組に関する調査
質問数	11問(選択式8問・自由記述式3問)
回答数	本校では46名(無記名)

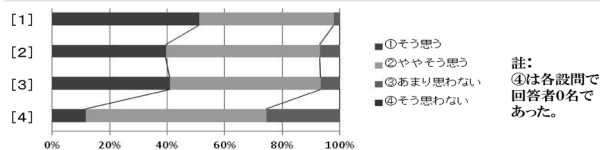
©2015 藤沢清流高校 禁無断転載・複製

29

3. 見えてきた成果・新たな課題

確かな学力向上推進アンケート(教員対象 2015年3月)

[1] 本校の校内授業研究は組織的な取組になっていると思いますか。
[2] これまでの校内授業研究の取組のなかで、授業づくりの参考になったこと、自分の授業が変わったと考えられることがありますか。
[3] これまでの取組を通して、教職員の授業改善への意識が向上したと思いますか。
[4] 校内授業研究の取組を通して、本校の生徒に変容があり、学校の目指す生徒像を
実現していると感じますか。



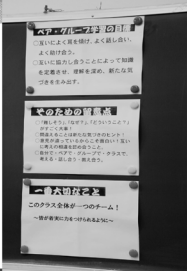
©2015 藤沢清流高校 禁無断転載・複製

30

3. 見えてきた成果・新たな課題

アクティブラーニングに関する取組について

生徒にアクティブラーニングの意義を説明し、理解させた上で授業を実施すると、生徒の意欲、態度に大きな変化が見られた。



33年度 藤沢市立高校 33年度 藤沢市立高校 33年度 藤沢市立高校

31

3. 見えてきた成果・新たな課題

研究成果の検証について

- 1 生徒に対し効果があったか(生徒の変容)
 - ・意欲が高まり、主体的に学ぶ力が身についたか
 - ・目に見える学力の向上があったか
- 2 教員に対し効果があったか(教員の変容)
 - ・意識が高まり、全校で授業改善が進んだか
 - ・組織的取組を進める手法が適切であったか
 - ・職員間の共通理解、協力する雰囲気を醸成したか

33年度 藤沢市立高校 33年度 藤沢市立高校 33年度 藤沢市立高校

32

3. 見えてきた成果・新たな課題

研究成果の検証について

- 1 生徒に対し効果があったか(生徒の変容)
 - ・意欲が高まり、主体的に学ぶ力が身についたか
 - ・目に見える学力の向上があったか (←測定が難しい)

例：ジェネリックスキル(汎用的能力)の測定
 ・リテラシーテスト(知識を活用して問題解決する力)
 ・コンピテンシーテスト(経験を積むことで身についた行動特性)

PROGテスト(河合塾×リアセック) 高校生版
 ※R-CAP、受験学力測定テスト、学習・生活状況調査と併せた「統合テスト」の活用も検討。

33年度 藤沢市立高校 33年度 藤沢市立高校 33年度 藤沢市立高校

33

3. 見えてきた成果・新たな課題

研究成果の検証について

- 2 教員に対し効果があったか(教員の変容)
 - ・意識が高まり、全校で授業改善が進んだか
 - ・組織的取組を進める手法が適切であったか
 - ・職員間の共通理解、協力する雰囲気を醸成したか

アクティブラーニングに基づく授業改善
 他
 組織のない担当者による研究推進
 教科会を軸に全員が関わる取組
 組織的で計画的な取組
 柔軟で継続的な取組

33年度 藤沢市立高校 33年度 藤沢市立高校 33年度 藤沢市立高校

34

4. 最後に

まとめ

◆組織的に授業改善を進めていくために

- 1) まずは個人でやってみる→試行錯誤の連続→少しずつ改良
- 2) 同僚で仲間を増やす、相互見学、情報交換、気づき、学び合い、そして新たな工夫
 →個人での取組・有志での取組・教科での取組・組織的な取組へ
 ★やり方を統一しない→様々な気づきが生まれる
- 3) 職員室にAL関連書籍のコーナーを設置(※あとに記載)
- 4) 校内で有志の研修会を行ってみる
 →推進チーム発足？
 →教員全員参加の校内研修実現へ
- 5) 授業の相互見学(→研修会)を開催
 →授業者のつるし上げにならないよう(「いいね!」と「質問」の2色の付箋を活用)

お茶・お菓子付きだと楽しい!

33年度 藤沢市立高校 33年度 藤沢市立高校 33年度 藤沢市立高校

35

4. 最後に

まとめ

◆組織的に授業改善を進めていくために

- 6) 校外での研修にも積極的に参加、ネットワークを広げる
- 7) AL型授業の進化・深化を図る
- 8) 生徒にアンケートをとり、学習への意欲・態度の変容を調べ、分析
- 9) 教員にアンケートをとり、教員の意識・授業実践の変容を調査し、取組の拡がりを掌握
- 10) キャリア教育とは、学校でのすべての教育活動であるが、基本は日頃の教科学習

33年度 藤沢市立高校 33年度 藤沢市立高校 33年度 藤沢市立高校

36



4. 最後に

まとめ

◆個人としてAL型授業をどのように進めていくか

- 1) まずはやってみる → 試行錯誤の連続 → 少しずつ改良
- 2) 年度当初の授業では、なぜAL型授業を行うのか、生徒にその目的をきちんと理解させる
- 3) 授業の最初には、その時間の学習到達目標、態度目標を確認。教室には「安全・安心の場」であることを生徒間に浸透させる。
- 4) 授業デザイン（教材の精選、課題設定、時間配分等）が大きなカギ
→ 講義はときには必要だが、生徒のALの時間をできるだけ確保したい
- 5) グループ分けに工夫をし、グループ内では係分担を。
→ 新しいグループではアイスブレイクを取り入れると効果的

©2015 Aikoku KOJIMA 印刷製本・複製

37



4. 最後に

まとめ

◆個人としてAL型授業をどのように進めていくか

- 6) グループワークの時間は、教員はファシリテーターに徹する
→ そこから出た生徒の質問には安易に答えない、質問には質問で返す
- 7) 毎時間、振り返りをさせる。できれば発展学習へ繋がる仕掛けを
→ 振り返りシートを工夫し、点検は簡略化
- 8) 同僚と授業を相互見学し合い、アイデアを共有
→ 他教科の授業でも意外なヒントが得られることも！
- 9) PC、スマホ、ホワイトボードなどを活用、ストップウォッチは必需品

©2015 Aikoku KOJIMA 印刷製本・複製

38



4. 最後に

キャリアガイダンス No.47(2013年7月) (リクルート)
http://souken.shingakunet.com/career_g/2013/07/no47201307-c68e.html
学習意欲を高め学力につなげる授業改革
1章 アクティブラーニング型授業をいかに始めるか
01 組織的に取り組む高校が全国に続々誕生
神奈川・県立 藤沢清流高校

キャリアガイダンス Vol.405(2014年12月) (リクルート)
http://souken.shingakunet.com/career_g/2014/12/vol405201412-3a96.html
■特集 アクティブラーニングで変わる授業と生徒の未来
1章 AL(アクティブラーニング)最前線 見えてきた課題とその解決策
追跡！AL導入から1年、生徒はどう変わったのか？
藤沢清流高校(神奈川・県立)

©2015 Aikoku KOJIMA 印刷製本・複製

39



4. 最後に

藤沢清流職員室のAL関連書籍コーナー 1

主な専門書・雑誌・配付物

- 『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』(溝上慎一 著 東信堂 ¥2,400)
- 『先生のためのアイデアブック-協同学習の基本原則とテクニック-』
(ジョージ・ジェイコブズ、マイケル・パワー、ロー・ワン・イン 著 日本協同教育学会 ナカニシヤ出版 ¥2,000)
- 『活動性を高める授業づくり 協同学習のすすめ』(安永悟 著 医学書院 ¥2,400)
- 『授業と学びの大改革 「学びの共同体」で変わる！ 高校の授業』(佐藤学、和井田節子、草川剛人、浜崎美保 編著 明治図書 ¥2,260)
- 『学生主体型授業の冒険 自ら学び、考える大学生を育てる』(小田隆治、杉原真晃 編著 ナカニシヤ出版 ¥3,200)
- 『アクティブラーニングでなぜ学生が成長するのか 経済系・工学系の全国大学調査からみえてきたこと』(河合塾 編著 東信堂 ¥2,800)
- 『「深い学び」につながるアクティブラーニング 全国大学の学科調査報告とカリキュラム設計の課題』(河合塾 編著 東信堂 ¥2,800)
- 『アクティブラーニング入門』(小林昭文 著 産業能率大学出版部 ¥1,500)
- 『授業を磨く』(田村学 著 東洋館出版社 ¥1,950)
- 『グループ学習入門 学びあう場づくりの技法 アカデミック・スキルズ』(新井和広、坂倉杏介 著 慶應義塾大学出版会 ¥1,200)

©2015 Aikoku KOJIMA 印刷製本・複製

40



4. 最後に

藤沢清流職員室のAL関連書籍コーナー 2

主な専門書・雑誌・配付物

- 『アイスブレイクベスト50 リラックスと集中を一瞬でつくる』(青木将幸 著 ほんの森出版 ¥1,600)
- 『15分でチームワークを高めるゲーム39 2人から100人でもできる！』(ブライアン・コール・ミラー 著 Discover 21 ¥1,400)
- 『ティープ・アクティブラーニング 大学授業を深化させるために』(松下佳代 編著 勁草書房 ¥3,000)
- 『成長するティップス先生 授業デザインのための秘訣集』(池田輝政、戸田山和久、近田政博、中井俊樹 著 玉川大学出版部 ¥1,400)
- 『現場ですぐに使える アクティブラーニング実践』(小林昭文、鈴木達哉、鈴木映司、アクティブラーニング実践プロジェクト 著 産業能率大学出版部 ¥2,000)
- 『どんな高校生が大学、社会で成長するのか ―「学校と社会をつなぐ調査」からわかった伸びる高校生のタイプ』(溝上 慎一、京都大学高等教育研究開発推進センター、河合塾 編 学事出版 ¥2,400)

※価格はいずれも本体価格(税抜き)

○『キャリアガイダンス』各号(リクルート)
○『ガイドライン』(河合塾)
○『キャリア教育推進フォーラム報告書』(第1回～第8回) (産業能率大学)
○『I'KUEI NEWS』2015.1 vol.69(電通育英会)

©2015 Aikoku KOJIMA 印刷製本・複製

41

(付)具体的な授業の紹介

「コミュニケーション英語Ⅰ」

授業日 平成27年6月15日 第1校時
クラス 1年次(3・4組) 20人
授業者 小島昭彦 総括教諭



42

コミュニケーション英語Ⅰ（小島）授業展開 2015.6.15(90分)		
1	挨拶、出席確認、小テスト	(4分)
2	導入、Gづくり、G学習について、本時の目標	(8分)
3	【現在完了とは？】(スライド)生徒指名・和訳	(8分)
4	【ペアワーク】隣どうして説明(理解→外化)	(2分)
5	【Section2】単語音読(スライド)、意味確認	(14分)
6	本文(範読・黙読)、【ペアワーク】(内容伝達)	(8分)
7	【個人→G(他G可)】プリントをうめる	(8分)
8	答え合わせ(生徒指名・口頭解答、解説)	(8分)
9	本文全体の理解(スライド、講義)	(2分)
10	本文音読(教師について音読)	(8分)
11	【①個人、②G】本文音読(起立→着席)	(8分)
12	【個人→Gで確認】問題演習(プリント・教科書)	(7分)
13	答え合わせ(生徒指名・口頭解答)	(4分)
14	【ペアワーク】プリントA・B(問題出し合い)	(9分)
15	宿題指示(スライド)、【個人】振返り	(10分)
16	振返りシート回収、次の授業内容説明	(1分)

43

英語Ⅰ 2015

この授業での基本方針

2015年度 担当:小島 昭彦

アクティブラーニング型授業

小島によるアクティブラーニング型授業実践
 (○個人による作業【集中】)
 ○ペア、グループによる協同学習【傾聴・話し合い・教え合い】
 - 助け合い・学び合い・気づき
 - LITE (Learning In TEaching) ... INPUTしたことをすぐにOUTPUTし、
 学習したことを着実に定着させる
 - グループごとの発表による学び合い・気づき
 ○リフレクションシート(個人による振り返り)
 - 協力し合えたか
 - 知識が定着し、理解が深まったか

©Akihiko KOJIMA

44

英語Ⅰ 2015

この授業での基本方針

2015年度 担当:小島 昭彦

アクティブラーニング型授業

ポイントとなること
 ○「間違い」、「わからない」が、実はすごく大事！
 ○「難しいなあ」、「わからないな」が出発点
 ○意見が違っているからこそ面白い
 ○お互いに意見を出し合い、それを認め合う
 ○互いに助け合い、教え合うことで知識が定着し、理解が深まる

©Akihiko KOJIMA

45

英語Ⅰ 2015

この授業における ペア・グループ学習の目標

2015年度 担当:小島 昭彦

○互いによく耳を傾け、よく話し合い、よく助け合う。

○互いに協力し合うことによって知識を定着させ、理解を深め、新たな気づきを生み出す。

©Akihiko KOJIMA

46

英語Ⅰ 2015

そのための留意点

2015年度 担当:小島 昭彦

○「難しそう」、「なぜ?」、「どういうこと?」がすごく大事！

○間違えることは新たな気づきのヒント！

○意見が違っているからこそ面白い！互いに考えの相違を認め合うこと。

○自分で・ペアで・グループで・クラスで、考える・話し合う・教え合う。

©Akihiko KOJIMA

47

英語Ⅰ 2015

一番大切なこと

2015年度 担当:小島 昭彦

このクラス全体が一つのチーム！
 ～皆が着実に力をつけられるように～

©Akihiko KOJIMA

48

英語 I 2015

今日の授業の目標

- ①現在完了形と過去形の違いを理解し、現在完了形を用いて自分のことが表現できる
- ②Green Roofs の効用とそのアイディアの由来について理解できる
- ◆ペア、グループでは互いに教え合い、学び合う姿勢を大切にし、積極的な学習参加を行う

©Akihiko KOJIMA

49

英語 I 2015

今日の振り返り

- ペアワーク、グループワークともに、互いによく耳を傾け、よく話し合い、よく助け合うことができましたか。
- 互いに協力し合うことによって、学習内容について理解を深め、何か新たな気づきを得ることができましたか。

©Akihiko KOJIMA

50

(付)具体的な授業の紹介

英語「コミュニケーション英語Ⅰ」(1年)



©2015 Akihiko KOJIMA 京都府立総合教育センター

51

(付)具体的な授業の紹介

英語「コミュニケーション英語Ⅰ」(1年)

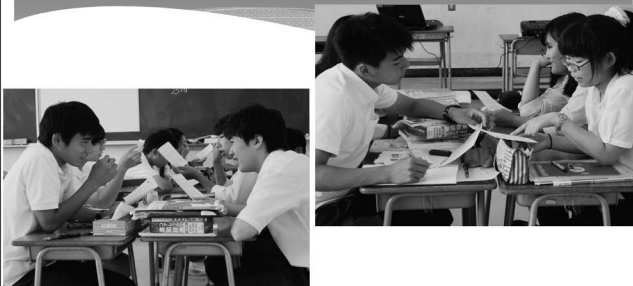


©2015 Akihiko KOJIMA 京都府立総合教育センター

52

(付)具体的な授業の紹介

英語「コミュニケーション英語Ⅰ」(1年)



©2015 Akihiko KOJIMA 京都府立総合教育センター

53



ご清聴ありがとうございました

©2015 Akihiko KOJIMA 京都府立総合教育センター

54